



オランダ国際球根協会ニュースレター Ms.Lily 賞決定 2011年07月号 VOL.028

## 第10回 Ms.Lily 2011 授賞式 女優の武井咲さんが受賞！史上最年少の Ms.Lily 誕生！



Ms.Lily 賞は、ユリの持つ多面的な美しさと魅力を広く伝え、ユリの更なるイメージ向上を図るため、毎年その年のトレンドを踏まえたテーマリリーなどを設定し、そのユリに最も似合う女性を決定しています。

7月2日(土)午後2時からフラワードリーム 2011 in 東京ビッグサイトのメインステージで、『第10回 Ms.Lily 2011-12』の授賞式が行われました。

記念すべき第10回目となる今年の受賞者は、女優の武井咲(たけいえみ)さんに決定。駐日オランダ王国臨時代理大使からテーマリリーである「ニンフ」を束ねた花束が贈呈され、花キューピットの井瀬美雪会長から記念の盾が贈られました。武井さんは、1993年12月25日生まれの17歳。Ms.Lilyの歴史の中で最年少の受賞者となりました。武井さんはインタビューの中で、名前の「咲(えみ)」は、両親が「花が咲くように元気で笑顔の絶えない子になってほしい」と願って名づけてくれたことに感謝したい。自分も花が好きで、この受賞を光栄に思うと笑顔で語りました。また、武井さんは、花束をもらう理想のシチュエーションを尋ねられると、誕生日のサプライズプレゼントがいいと夢を語り、お食事の場とかでもらえたらうれしいと記者に答えていました。武井さんはCM、ドラマなどで活躍されており、来年のNHK大河ドラマ「平清盛」に出演されるそうです。

今年の Ms.Lily テーマリリーはOTハイブリッドユリの「ニンフ」。妖精を意味する「ニンフ」というユリは、フリージアに似た爽やかな香りを持つオリエンタルリリーです。17歳らしいかわいらしさや爽やかさを持ちながら、一方で、凛とした佇まいをあわせ持つ武井咲さんには、まさにぴったりのユリとなりました。

授賞式では、花キューピット協同組合とオランダ国際球根協会が共同で花キューピット加盟店の店頭で実施している「Happy Mother To Be」キャンペーンについても紹介されました。これからお母さんになる女性に。お母さんとしてがんばっている女性に。そして、いきいきと輝いているすべての女性に。日ごろの感謝とこれからの声援をこめてユリを贈るといった女性たちへの応援キャンペーンは、ことしもパワーアップして展開中です。

今年のテーマリリーや「Happy Mother To Be」キャンペーンは、IBCのHPもチェックしてみてください。

インターネット花キューピットの「Happy Mother To Be」キャンペーンページ

<http://www.i879.com/products/catalog/categoryId/nl00>

I B C 「Happy Mother To Be」キャンペーンページ

<http://www.kyukon.info/happymothertobe.html>

## CONTENTS

**第10回 Ms.Lily 2011 授賞式 女優の武井咲さんが受賞！史上最年少の Ms.Lily 誕生！**  
**「ジャパン・リリー・ハウス JAPAN LILY HOUSE」！ フラワードリームに出展しました**  
**ドリン・ファン・デル・ブルグさんが語る「14000本以上のユリ」をアレンジするコツ**  
**お墓参りのための花 ~ヨーロッパ~**  
**オランダ人学生の卒業研修 日本滞在記 by シュート オニングス**

## CONTENTS

**「ジャパン・リリー・ハウス JAPAN LILY HOUSE」！ フラワードリームに出展しました**

7月2日(土)~3日(日)の2日間、一般社団法人日本生花通信配達協会(JFTD)が主催する「フラワードリーム2011 in 東京ビッグサイト」に出展しました。フラワードリームは、「花のある生活」の豊かさ、「花」が持つ大きな魅力・可能性を伝えるため、2009年から開催されています。今年3万人を超える来場者でにぎわいました。上記のとおり「Ms.Lily2011-2012」は武井咲さんに決まりました。IBCでは、今年もJFTA(社)日本花き球根輸出入協会と共同で「ジャパン・リリー・ハウス JAPAN LILY HOUSE」としてブース出展しました。鉢物・切り花それぞれに開花した状態のユリを色ごとに見やすく展示し、新しい品種や変わった品種もたくさんごらんいただきました。ここでは、09年ジャパンカップ優勝の平井昭臣さんとカトリンさんご夫妻にも担当していただき素晴らしい作品の制作・展示になりました。Ms.Lilyのテーマリリーである「ニンフ」をはじめ、八重咲きのオリエンタルなど、ユリには多様な品種があることがよくわかる展示となりました。多くの来場者が興味を持ち、写真を撮っている姿がありました。



## ドリーン・ファン・デル・ブルグさんが語る「14000本以上のユリ」をアレンジするコツ

「14000本以上のユリ！」見る側はただただ圧倒されるのみですが、これを実際に生けることのできるフラワーデザイナーがいます。国際的に有名なフローラル・スタイリストのドリーン・ファン・デン・ベルグさんが、ユリをアレンジする時の気持ちを、惜しみなく話してくれました。

「すべての花は顔を持っています。でも、ユリほど多彩な表情を持つ花はほとんどありません。」ドリーンさんは、ペンシルバニア州ケネット・スクエアのロングウッド・ガーデンで開催される北米最大のユリの展示会「リリートピア」の総合デザイナーとして、オランダ、リッセの球根畑の中にある自宅を築き、米国に向かいました。

「リリートピア」のように14000本以上の「花と戯れる」機会がある人はほとんどいないと思いますが、ドリーンさんが以下で紹介するアレンジのコツに従えば誰でも自宅で素敵なユリのアレンジメントができます。

ドリーンさんは「肝心なのは難しく考えないことです。花はそれ自体がすでに美しいのですから」と言っています。「でも、計画は立ててください。最初に考えてから実行します。そうすればリラックスしてアレンジに取り組むことができます。」彼女は天然素材と花をクリエイティブに組み合わせることで国際的な評価を得ており、プロセスの重要性を知っています。「アレンジを始める前に、まず誰のためのアレンジなのか？目的は何か？どこに飾るのか？また、どのような花器を使うかも考えます。選択肢が多ければ多いほど、計画を立てる重要性が増します。例えば、まず始める前にアレンジメントのサイズを考えます。」



ドリーンさんは、アレンジのデザインを始める前に完全に「肩の力を抜く」よう勧めています。そうすればあなたの感性すべてを使うことができるからです。また、あなたがどのような場所においても日常の環境から刺激をもらうよう心がけます。彼女にとっての日常の環境とは、ストライプの明るい色彩に彩られた球根畑（季節によりますが、主にチューリップあるいはダリア）に囲まれた素朴で元気にしてくれる農場の家で北海からのそよ風を浴びて過ごすこと。彼女の家の近くには、球根花の展示で有名なキューケンホフ公園もあります。

## ドリーン・ファン・デン・ベルグさんが教えるユリをアレンジするコツ

1本からなんと14000本までのユリを自宅でアレンジするコツをご紹介します。

- **ユリの花の顔を前に向ける：** 大きなユリには美しい大輪の花がついています。赤ちゃんですら大輪に反応します。花と人がアイコンタクトを通じて触れ合うことができるよう、人々が眺める角度に花の顔を向けます。

- **事前に考える：** 開花したユリにはスペースが必要。通常、まだつぼみのユリをアレンジに使います。そうすればアレンジが長保ちするからです。でも、つぼみが開花することを忘れてはなりません。花が開花した時のことを考えてスペースをつくっておきます。
- **大輪のユリの花は重い：** 大輪のユリの花の重さで茎が曲がる場合があります。それをふせぐために、小枝や棒で茎を補強します。これは単に実用的なだけでなく、とても簡単で見かけも自然です。特別なものは何もありません。庭にある小枝や枝木を使えばいいのです。
- **花器の縁を「隠すよう」アレンジする：** 花器は単なる容器ではなく、アレンジの一部なのです。器の縁を隠すことにより、アレンジメントのサイズが大きくなります。花が縁から垂れ下がるようにしたり、角度をつけて茎を数本差し込んだりして、花器の縁が隠れるようアレンジします。これは、ボリュームがありファッショナブルで立体的なアレンジメントにするためです。



### ドリーンさんの実用的なアドバイス

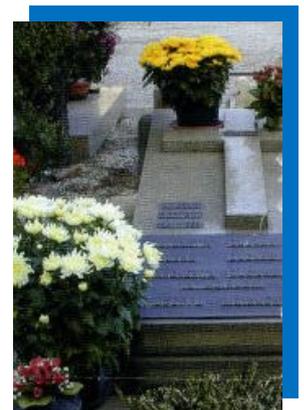
- アレンジのために茎の下準備をする。水揚げをよくするために茎の根元を少し切ります。茎を傷つけないように清潔でよく切れるナイフを使います。重いユリの花を十分支えられる頑丈で背丈のある花器を選びます。水を新鮮で澄んだ状態に保つため、水温の低い清潔な水に切花保存剤などを一包入れます。
- 花器にかけたユリは非常に長保ちします。二週間ほど持たせるのは簡単です。下の方のつぼみから上へと開花します。いきいきした外観を保つためしぼんだ花を摘み取ります。
- 冷暖房の通気を避ける。花が開花するときは特に気をつけなければなりません。通気がある、あるいは風の強い場所は花の開花には適していません！
- 花粉の扱いを決める。ユリの花粉は皮膚や布、花びらさえも汚すことがあります。花粉の扱いには二通りあります。おしべを摘み取って花粉を全て取り除くか、あるいは気にせず花粉がついたままの花を楽しむか、どちらを選択するかはあなた次第です。いずれにしる花粉がついたままの花は美しいものです。もし花粉がついてしまったら濡れた布でこすってはいけません。しみになってしまいます。汚れた部分を乾かしてから、セロテープで花粉を持ち上げるようにして取り除きます。これで花粉のしみの大部分を取り除くことができます。しみがまだ残っていたら、日光にあてます。インクが消えるように日光がしみを消してくれます。

ユリはほぼ一年を通じて入手できますが、夏の間は屋外で自然に育てることができるため最も豊富で値段が手頃です。自宅でユリのアレンジを楽しむには夏が最適です。たとえ予算の都合で 14000 本以下のユリしか扱えなくても！

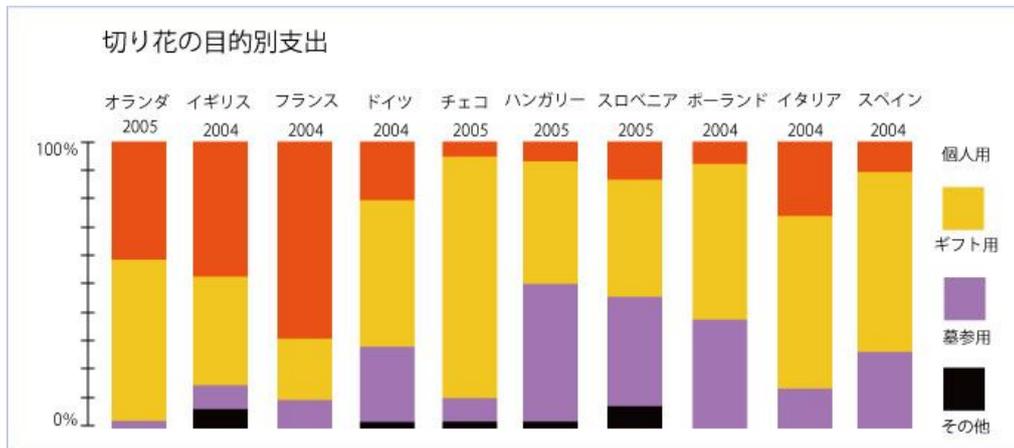
### お墓参りのための花 ~ヨーロッパ~

日本では多くの方が7月、8月の新旧のお盆にお墓まいりをします。ヨーロッパでは11月1日と2日の万聖節（諸聖人の日）に多くの方がお墓参りをします。お葬式には花を多く使いますが、お墓参りの際にも花を使うことが多く、オランダの花市場にとっては花の需要が多くなる日で、花の値段にも影響があります。

グラフを見るとハンガリーでは切花需要の半分はお墓参り用、11月以外にもお墓参りをする日いくつかあります。宗教的にカトリックの影響が強いポーランド、スロベニアも同様です。これら需要の多い日は墓地の周りにお花の露店が立ちます。



### 切り花の目的別支出



西ヨーロッパ諸国、オランダ、フランス、ドイツ、イギリスを比べると、ドイツ人は一番多くお墓参りのために切り花を買います(全体の4分の1)。オランダ人は切り花よりも鉢物をお墓のためによく買う傾向があります。お墓参り用の花はフローリスト(お花屋さん)で買

われることがほとんどですが、イギリスだけはスーパーマーケットで購入することが多いのが特徴です。

一番人気の花はバラ、東ヨーロッパではマムとカーネーションも人気があります。また、ミックスブーケよりも単品種で作られたモノブーケのほうに人気があります。( Vakblad の記事から )

### オランダ人学生の卒業研修 日本滞在記 by シュート オニングス

「国際ビジネス&マーケティング」を専攻するオランダ人学生 Sjoerd Onings シュート オニングス さんは卒業研修先として日本を選びました。その実に学ぶことの多い、また楽しい期間だった日本滞在を振り返ります。

#### 日本各地の風土や文化の多様性と日本人のマナーのよさに驚く

まず、新潟をはじめ高知を中心に滞在し研修をしました。特に長浜市の森田夫妻のユリ切り花栽培ナーサリーでは2週間の貴重な実習も経験できました。その他、京都、神戸、名古屋、東京などの都市を訪れたことは言うまでもありません。

私にとっての「日本」は地理的に南北に長い島国という印象が強く、各都市それぞれの方言や慣習があり、人々がまたそれを誇りに思っているということです。各地域の気候の差をはじめ、各都市間の慣習の違い、そして地方都市と大都市である東京との違いの大きさに、日本よりさらに小さい国であるオランダから来た私にとっては驚きでした。



文化と慣習という面では、伝統的な日本建設や家屋、隅々まで手入れがなされた庭園の美しさは忘れられません。しかし、一般的な町並みとして見ると、建物建築や町の景観に関する条令の非常に厳しいオランダとちがひ、個人個人が様々なスタイルや色を使ってよい日本の「緩さ」にも驚きました。セントラルヒーティングが普及しているオランダの家屋と違い、各部屋にストーブなどの暖房器具があるのも面白かったです。

日本食は大好きですが、伝統的な家庭では1日3食和食というところもあり、オランダでは朝ご飯はパン、といったスタイルに慣れている私にとっては、多少慣れるのに時間がかかりました。しかし、日本食は非常に健康的で、日本人も食事に関して「健康」と「品質」に気を使っているということがよく感じられました。

滞在期間をとおして、常に日本人の親切さ、ホスピタリティーに感激することが多くありました。特に自宅に招待していただいた方たちとの交流は忘れられない思い出となっています。

日本の外出先での安全さや人々のマナーの良さは、話に聞いていたものの、オランダでは想像できないものでしょう。例えば、電車の中では携帯電話を使用せず、置き忘れた会員のラップトップがそのまま盗まれずに置かれたままであったのを目撃した時は、ほとんど信じられませんでした。そのような「安全」な気持ちを経験した後で、あの3月の自然の脅威、大震災には本当に心が痛みます。

### 日本のユリの生産、流通、販売の特徴 ~規模・品質・高齢化・セリ

さて、肝心のユリの球根の話も忘れてはなりません。まず、先に述べた各地の気候の違いという点では、日本の北の地方ではユリ栽培には寒すぎ、南の地方では暑すぎるのではと思いました。シーズンのタイミングを見極めるのが重要と思います。これはオランダにいた時には思いもしなかったポイントです。

一般的に日本の花き園芸生産者の温室のスケールは、オランダのそれに比べて小さいことと、常にハイテク栽培技術や施設が登場するオランダと違い、栽培方法がやや昔風、素朴であることが目につきました。しかし、小規模栽培のメリットとして、細かいところまで注意が行き渡った栽培ができ、その成果としてのクオリティーの高さも忘れてはなりません。知識や経験の深い生産者とも多く出会うことができましたが、日本人の生産者はオランダより高齢であるように思われます。中には私の祖父や父を知っている方達も少なくなく、次の世代である私に暖かく接していただいた時もありました。



研修滞在期間を通して、球根業界一連のチェーンを経験できたことは非常に勉強になりました。例えば、球根輸入会社から球根生産者、球根切り花生産者などを視察し、切り花生産者では実習も経験できました。その後、花市場、卸業者、小売店、ホームセンターをはじめ、生産者から消費者へのダイレクトセールやローカルショップなども網羅できたことは、日本の球根販売の一連の流れを見る上で非常に勉強になりました。

オランダと違い、日本の花市場は会員である生産者のものでなく、生産者と卸業者や小売りとの中間に位置する独立した営利団体であることが、非常に印象に残りました。オランダには花市場は8つしかありませんが、日本には160を超える数の市場があると聞きました。その花市場の間での格差が大きいのも特徴でしょう。なかにはまだ「手」でセリ売買を行うところもあれば、セリクロック（時計）を使うところもあるといった具合です。オランダの花市場は値段が上から下に下がる逆セリ方式ということも違いの一つです。

日本ではまだ箱入りで花が搬入され、バイヤーに提示され、セリが行われる方法が一般ですが、オランダでは実際に花がクロック前を通過することなく、デジタル画像表示でのセリになりつつあります。またオンラインでの遠隔地からのセリ参加も行われています。ここで非常に重要な点は、バイヤーが各生産者のクオリティーを熟知してなくてはならないということでしょう。

日本の自然の美しさや親切な人々と並んで、日本が農業の国であること、また農業に従事している人々の真剣さ、品質に対する真摯な態度に深い印象を受けました。

最後に、日本食の大ファンとなり、楽しい思い出のたくさんできたこの日本に、一日も早く戻ることができ、日本語がもっと上達するように願っています。

節電の夏を迎えています。この暑さの中で日持ちする花が注目されているそうです。なかでもユリは欠かすことのできないメインプレーヤー。毎日どこかで人々の暮らしを彩り目を楽しませ、香りを放っています。今月はビッグサイトのフラワードリーム、そして、花のカプロジェクトによる世田谷市場の「花の力 for Japan」と、花の生産・流通・販売に携わる多くの人たちが関わるイベントが行われました。日常とはちょっと異なる場所と相手を前に花の新たな価値に気づかせてもらえる機会となりました。

オランダ国際球根協会ニュースレター第028号7月号 発行：オランダ国際球根協会

HP：<http://www.kyukon.org/> メールアドレス [ibc@aurorajp.com](mailto:ibc@aurorajp.com)